CLUB INTRODUCTION
山岳会紹介

山岳会にいらっしゃい

山岳会ってどんなところ？ イラストレーターの橋尾さんが集会に潜入取材してリーダーに直撃します!!

橋尾歌子＝イラストレーション・文

会名のACCとは、アルパイン・クライミング・サークルの略。未登未見の沢での遡行で知られる会で、「こだわりの山行」を積極的に楽しんでいる。そのこだわりとは「有名、難度の高い沢のコレクションじゃなく、自分がやりたいことを定めていくこと」と榎本さん。

最新の『年報ALPINE11』には、沢の会としての評価を確立したのを第一期とし、「地域研究が終わった第二期はどこに向かうのだろうか」と書かれている。はたしてどこに向かおうとしているのか。「注目されるような記録がなくなれば、ハイキングクラブ。になっていくと考えています。決して難度でなくていいので、オリジナリティのある、ほかの会から注目されるような記録を発信できる山行をめざしてほしい」と榎本さんは若手に期待している。

そんな若手会員の伊藤さんに「この会に入って驚いたことはありますか？」と聞いてみた。入会当初はハイキング程度しか知らなかったのに、沢登りを始めて「こんな世界があるんだ」と驚いたとか。入会してよかったことは？「仕事で疲れていても山に行けばほっとする。そういう体験ができるようになったのがいちばんよかったことかな。ほんと癒やされます」

その言葉に癒やされました～。

第12回 名古屋ACC

会所在地	愛知県名古屋市
設立	1958年3月
会員数	29人（20代～70代）（男性26人、女性3人）
集会	月に2回（第1水曜、第3火曜）。場所は要確認（中京大学文化市民会館第二会議室または名古屋金山ワシントンホテルプラザ第二会議室）
山行スタイル	沢登り、山スキー、アルパインクライミング、フリークライミング、雪山一般、ハイキング、縦走
HP	http://nagoya-acc.pepper.jp/
Eメール	nagoyaacc2007@yahoo.co.jp

話を聞いたひと 榎本成志さん

生年月日	1970年2月3日
登山歴	17年
入会年数	9年
会での役職	シニアリーダー

テント祭り＆慰霊祭に参加しました！

テント祭りとは、年2回開催される、飲んで歌って踊る親睦宴会。7月の開催場所は鈴鹿山系釈迦ヶ岳麓にある朝明茶屋と決まっている。なぜなら、この近くの流れ谷で1962年に会員の鈴木郁子さんが亡くなり、その慰霊祭がテント祭りの翌日に行なわれるから。名古屋ACC53年の歴史のなかで、75年と80年にも遭難事故が起きている。ほかのふたりは別の場所で亡くなったのだが、「みんな一緒の場所にあったほうが来やすいでしょ？」と代表の服部さん。

流れ谷にある慰霊碑を丁寧に掃除し、花と線香を手向ける。そのあと、亡くなった3人それぞれに捧げる歌を全員で歌った。

それにしてもここはヒルが多い。沢慣れしていない私だけがぎゃーぎゃー泣いていました。脳がしくてごめんナサイ。

白山山域の山々はピークもそこに上がる尾根も沢もとてもいい。なかでも、境川・大倉谷は『日本百名谷』（白山書房）掲載の二俣の写真を見て心を動かされる人も多いだろう。そこまでも、そこからも実に見事な渓。決して簡単な沢ではないけれど。